

令和6年8月12日

主将主務会議資料

内容

0. タイムスケジュール
1. 9月入学に関して
2. リーグ開催に伴う大学コート使用料に関して
3. 雨天時対応マニュアル
4. オーダー交換に関するペナルティ
5. ネームカードの受け取りについて（リーグ HP 掲載済資料）
6. ヒートルールについて（リーグ HP 掲載済資料）

0. タイムスケジュール

19:50	Zoom 入室
20:00	開会の言葉
20:05	定足数の確認、議長選出、議事録署名人選出、議事運営説明
20:10	9月入学の条件に関して
20:20	質疑応答、承認決議
20:35	リーグ開催に伴う大学コート使用料に関して
20:40	リーグ 追加事項に関する説明 1. 雨天時対応マニュアル 2. オーダー交換に関するペナルティ 3. ネームカードの受け取りについて (WBGT 計測器) 4. ヒートルールについて リーグ その他 1. リーグ優勝、準優勝時のトロフィーについて
20:55	閉会の言葉
21:00	Zoom 退室

2024年8月12日

今年度リーグ要項における出場資格である「9月入学予定選手」に対する説明と報告

0. 決議までの流れ

まずはじめに、今回の変更について、経緯説明を連盟幹事長の方から行う。
その後、1部校各大学主将（もしくは主務）より、今回の変更について意見を貰う。
次に、2部～7部に所属する大学からの質疑応答の時間を設ける。
最後に、1部校含め質疑応答の時間を設ける。
上記の手続き後、承認決議へと入る。

1. 前提

まずはじめに7月14日に行われた主将主務会議にて説明させて頂いたリーグ要項に対して、複数の大学よりリーグ出場資格の一部である、「9月入学予定選手」への条件が例年と異なっている理由について再度説明をしてほしいとの連絡を受けた。その連絡を受け、先日8月10日付きの1部校主将会議にてその説明を行なった。それに伴って今回の出場資格の変更に対して全体にいま一度説明を行い、再承認して頂く形となった。

2. 前年との変更点及び経緯説明

今回の一連の変更については以下の通りとなる。

出場資格の変更は、前々から当連盟内において「出場資格を明確すべきだ」という声が上がっていたため、例年記載されていなかった内容そして暗黙の了解としてきた内容について連盟内で協議を重ね、文章を加える形となった。

その際に、7月7日掲載時には記載されていなかった9月入学に関して、掲載後に慶応義塾大学の学連より「現行の条件であると9月1日に出場は難しく、また4年生時にリーグ戦より前に卒業式を迎えてしまうと4年生としてリーグ戦を最後まで戦えないかつ出場回数が結果として3年間となってしまうので再度話し合ってもらいたい」との連絡を受け、発表時までの間で連盟内で再度話し合いを行った。

そして、連盟としては以下を条件改訂における必要条件として設定し、最終的に(4)の条件を加える形となった。

- ・4月入学者同様に、リーグ出場回数を4回（年）とすること。
- ・リーグ開催時期に関わらず、上記を保証する条件を設定すること。
- ・現行の条件で問題であった点が解消され、改定後の条件において問題である点が無いようにすること。

現在、掲載しているリーグ要項においては、以下の問題点が解消される形となった。

前年までの問題点
1. 夏関の時期が6月→10月に変更になった事に伴い、春関未出場の選手がリーグ出場条件に満たさない
2. 春関以降に入部した学生がリーグ出場資格を満たしていない

- 3. 9月入学者の入学条件をリーグ開催中に達成する事が難しい
- 4. 9月入学者の出場回数が場合によって変動する事がある

これらの問題点を解決する条件を新たに要項に加え、最終的に主将主務会議の場で今回の変更についてはリーグレフェリーが説明後、自分の方からも再度説明を行なった。
また変更に伴う連絡を受けて、8月10日に1部校主将会議で再度説明を行った。

前年まで	2024年7月7日 HP 掲載時	2024年7月14日発表時
9月入学の学生は9月1日以降の試合から出場可能です。	<p>3部以下に所属する大学または1年生に関してはこの条件を満たさずとも出場を可能とする。</p> <p>9月入学予定の選手は個人登録並びに入学年の9月1日以降に行われる大会にエントリーできる。</p> <p>事情により入学しない事が確定した場合は、早急に本連盟に申請しなければならない。9月入学する選手の扱いは、以下の条件を最低1項目満たしている場合、正式に入学と認め、その後の本連盟が主催する大会に出場する事が出来る。</p> <p>(1) 入学式が終了している (2) 学生証の有効期限内である (3) 在籍証明書が発行できる状態である (部が発行する証明書は無効)</p> <p>リーグ戦期間中に入学する場合は、入学と認められた日より出場する事が出来る。 最低1項目を満たしている場合、入学と認め、その後の本連盟が主催する大会に出場する事が出来る。 入学と認められる前に大会に出場していた場合は、当該選手並びに当該大学に厳格な処分を下す。</p>	<p>3部以下に所属する大学または1年生に関してはこの条件を満たさずとも出場を可能とする。</p> <p>9月入学予定の選手は個人登録並びに入学年の9月1日以降に行われる大会にエントリーできる。</p> <p>事情により入学しない事が確定した場合は、早急に本連盟に申請しなければならない。9月入学する選手の扱いは、以下の条件を最低1項目満たしている場合、正式に入学と認め、その後の本連盟が主催する大会に出場する事が出来る。</p> <p>(1) 入学式が終了している (2) 学生証の有効期限内である (3) 在籍証明書が発行できる状態である (部が発行する証明書は無効)</p> <p>リーグ戦期間中に入学する場合は、入学と認められた日より出場する事が出来る。 上記の(1)～(3)の条件に加え、以下の条件を含めたすべての条件のうち最低1項目を満たしている場合、最低1項目を満たしている場合、入学と認め、その後の本連盟が主催する大会に出場する事が出来る。</p> <p>(4) 合格を証明する書類および学費納入を証明する書類を提出できる状態である</p> <p>入学と認められる前に大会に出場していた場合は、当該選手並びに当該大学に厳格な処分を下す。</p>

		原則として、どのような理由であってもリーグ戦への出場回数は4回までとする。
--	--	---------------------------------------

3. 承認事項

今回の主将主務会議の場で決議を行う内容は以下となる。

・2024年7月14日に発表そして掲載を行った今年度リーグ要項出場資格に関する変更の是非

過半数以上が賛成であれば、現行のリーグ要項のまま開催を行う。

2024年8月12日

リーグ開催に伴う大学コート使用料に関して

1. 前提

現在のリーグ冊子に記載されているコートに関する規約は以下の通りである。

9. コートの使用

- ・原則としてコート選択権所有校又は本連盟の指定するコートを使用するものとする。
- ・コート選択権所有校は大会前に本連盟が決定し、使用コートはコート選択権所有校が責任をもって手配しなければならない。サーフェスは問わないが、使用面数は原則として最低3面とする。但し、使用コート全て同じサーフェスである必要がある。
- ・入替戦によって替わった部もこの一環とする。
- ・入替戦は上位校に従うものとする。
- ・この原則に基づいて試合を行えない場合は幹事会の承認を求める。

★使用コート

- ・使用可能コート面数が3面未満の場合は相手校、若しくは他のコートを手配して試合を行う。
- ・天候や試合進行状況に応じて、両校主将・主務の話し合いの上で使用面数を増やすことが望ましい。
- ・民間施設のテニスクラブ等で有料コートを借りたときは、必ず対戦校両校でキャンセル料を含め折半する。
- ・コートの所在地を事前に確認すること。各校の責任である。
- ・コート選択権所有校の大学テニスコート以外で試合を行う場合、コート選択権所有校のコートレフェリーは使用コートを必ず学連に報告すること。
- ・使用コートを当該校硬式庭球部で占有できる場合、全試合が終了するまで両校共会場内のコートでは釋してはならない。

注：コート選択権とは、「どこの場所で試合を行うかを選び、決めることのできる権利」である。必ずしも「自校の大学テニスコートで試合を行うことのできる権利」ではない。

前回の主将主務会議の質疑応答の際に、いくつかの大学からコート使用料の支払いについて質問を受けた。その後、明治大学の監督より連絡を受け、連盟内で改めて使用料の支払いに関して、協議を行った。

2. 問題点

まずはじめに以前までの使用料の支払いは以下の通りとなっている。

- (1) 特定の大学（コート使用料の発生する大学）で開催した場合は、折半をして支払う。
- (2) コート使用料の発生しない大学は除いて、その年度で発生した使用料の合計を残りの大学で折半をして支払う。
→状況によっては、発生しない大学も使用料を支払う場合もあった。

以前まではこのようなルールの下で記載もされずに適用されていたが、このルールに対して、明治大学の監督より検討してほしいとの連絡を受けた。
この支払いにおけるルールの問題点としては、

- ・使用料の発生しない大学と発生する大学が存在し、対戦する大学によって費用が発生してしまうこと
- ・使用料が大学によって異なることが挙げられる。

3. 連盟としての判断と決定（今年度において）

連盟の判断としては、コート選択権を所有する大学が、自大学テニスコートを選択し費用が発生する場合において、選択権所有校が自己負担で支払うものとする。

理由としては、コート選択権を持っている＝自校の大学コートで必ず行うものではない。あくまで、どのコートでリーグ戦を開催するかを選択できる権利を持っている。それを前提としたうえで、コート選択権を持つ大学は、もし費用がかかるのであれば費用の掛からないコート（相手校のコート、もしくは安く借りる事の出来る外部コートにて折半など）を使用するという選択が出来るはずなので、その中でも自校のコートを選択しているのであれば自己負担で支払うべきであると考えている。大会で使用する場合（普段の練習では発生しない）にのみ費用が発生するものだとしても同様である。

雨天時対応マニュアル

2024年8月6日

・前日に雨予報であった場合、両校で話し合い、インドアコートを確認する。予備日（予定していた対戦日程の二日後までを予備日とする）を過ぎる場合に雨予報である時は必ずインドアコートを確認し、試合を行える状態にすること。また、自校の都合で相手校に強要はしないこと。

・予備日を過ぎる場合にインドアコートを確認できない時は、学連に連絡すること。

・以下対応手順となる。

① 試合会場地点の雨雲レーダーを確認し、両校話し合い、何時間待機をするかを定める。オムニコートで試合ができる可能性がある場合は、最低でも2時間は待機すること。

② コート選択権所有校のコートレフェリーが関東学生テニス連盟(03-5577-4940)に連絡。学連のコートレフェリーが派遣されていない場合は、両校の代表者が連絡すること。

※1・2 部校の連絡は当日派遣された学連のコートレフェリーが行います。

③ コート選択権所有校のコートレフェリーは途中経過をメールフォームにて報告。メールフォームには、試合会場、試合状況、待機時間、再開予定時刻などを記入すること。

④ 再開する、中止する、会場移動、どの場合でも学連に報告。

⑤ 再開をしても試合が終わらなかった、中止にした場合、原則として翌日朝9時より試合を再開する。翌日の天気予報などから、翌日朝9時より試合を開始できないことが明確な場合はこの限りではない。（一部校の場合は10時試合開始とする）プラクティスの有無は両校で話し合って決めること。試合前アップは5分間とする。

⑥ 会場移動をする場合は、両校の合意のもとで、できるだけ近くのインドアコートを探す。インドアコートの使用料は両校で折半すること。

⑦ インドアコートが見つからない場合は、両校の合意のもとで、予備日の範囲内で延期する。

⑧ 延期した試合は、原則として次の予備日に行う。予備日がない場合は、両校の都合を考慮して、学連に相談する。

⑨ 延期した試合は、前日までに終了した試合の結果をそのまま引き継ぐ。途中経過の試合は、中断した時点から再開する。

⑩ 延期した試合の会場や時間は、両校で話し合って決める。学連に報告すること。

1 部校リーグレフェリー 梶川 将吾

2~7 部校リーグレフェリー 志賀 夏緒

オーダー交換におけるペナルティ基準

2024年8月6日

・これまでオーダー用紙・交換におけるペナルティの基準が明確になっていなかった為、今年より基準を定めさせていただきます。

オーダー交換について（リーグ冊子 p.14 より抜粋）

・出場選手は、オーダー交換の際に試合の行えるウェアを着用した上で整列しなければならない(ウォームアップ着用可長袖不可)。

(*)**整列時に出場選手が整列できていなかった場合、その選手は W.O.となる。**

・シングルのオーダー交換はダブルスの試合終了後即座に行うものとし、片方の学校が整列しているのに関わらず **3分経過しても整列出来てない場合は(*)を適用する。**

・開会式(ダブルスのオーダー交換時)のみ定刻になり次第、閉会式は両校部員が全員整列し次第、式次第を開始する。

・開会式(ダブルスのオーダー交換時)のみ定刻になり次第、その他(シングルのオーダー交換及び閉会式)は両校部員が全員整列し次第、式次第を開始する。

・例え試合当日が朝から雨天であっても、中止や待機等の指示が学連より出ていない限りは必ず定刻にオーダー交換を行わなければならない。台風の場合にはこのルールが適用されないものとする。

・オーダー交換時にオーダー用紙がコート内になかった場合は**当該試合を没収**とします。

・出場資格を満たしていない者が出場していたことが発覚した場合は、試合終了後でも**当該対戦に於ける全試合が不戦敗**となる。

オーダー用紙について（リーグ冊子 p.14,15 より抜粋）

・オーダー用紙の様式は、関東学生テニス連盟(以後、当連盟)指定の用紙に毛筆又はペン書き(黒または青)とする。選手の名前はフルネームで書く。日時等数字を記入する箇所は漢数字でも算用数字でも可。正式大学名に於いて略字は不可とする(正式大学名は前以て確認しておくこと)。また、オーダー交換の際の封筒の有無は問わない。

・入替戦に於いても、自校が所属する部を記入する。

・訂正箇所には2重線を引き、部印がそれにかかるように押すことによって訂正を認める(修正液の使用は不可)。オーダー交換終了後の訂正は認めない。

・修正液の使用がみられたり、オーダー用紙が間違っていたり日付・正式大学名・部印が抜けていたりした等の場合には、学連が判断し処理する。基本的には、そのオーダー交換の試合に限り1stセットダウンとする。

(変更) →**脱字が選手名である場合は、その選手が出場する試合に限り1stセットダウンとする。脱字が選手名以外の場合は、そのオーダー交換の試合に限り1stセットダウンとする。**

・字の止め・跳ね・払い および、字の太さ・丁寧さは誤字に該当しない。旧字体・新字体のミスや画数の過不足、誤植・脱字のみを誤字とする。

(変更) →**誤字が選手名である場合は、その選手が出場する試合に限り1stセットダウンとする。誤字が選手名以外の場合は、そのオーダー交換の試合に限り1stセットダウンとする。**

・オーダーに対しての質疑は、ダブルス・シングルスそれぞれの最初の試合のウォーミングアップが始まるまでとする。ウォーミングアップが始まった後の提訴は受け付けない。

オーダー順位について（リーグ冊子 p.14 より抜粋）

- ・オーダー順位は、関東大学テニスリーグ規約第 12 項「オーダー規約」(本冊子 p.4)に基づく。
- ・オーダー順位の誤りが明らかになった場合、当該校はそのオーダーをオーダー規約に基づき、**当日のオーダー用紙に記載されている選手の範囲内で相手校の要求通りに変えなければならない**。これらの処置は質疑権所有者から質疑があった場合に学連がとる(質疑権所有者以外からの質疑は受け付けない)。

追記事項について

- ・オーダー交換を行う際に、シングルのオーダー用紙とダブルスのオーダー用紙を間違えて渡してしまった場合は、**当該試合を没収する**。
- ・オーダー交換を行う際に、シングルのオーダー用紙とダブルスのオーダー用紙の 2 枚を封筒に入れた状態で渡した場合は、**相手校にトスアップの権利を渡す**。
- ・オーダー交換を行う際に、学連に提出するオーダー用紙がコート内になかった場合（学連に渡す事が出来なかった場合）は、**そのオーダー交換の試合に限り 1st セットダウン**とする。

このほかにもオーダー用紙・交換におけるミスが発生した際には、学連で判断し処理するものとする。

ネームカード受け取りのお知らせ

2024年8月3日

関東学生連盟

今年度は、審判講習会に参加された大学を対象として、下記の日程で各大学代表者 1 名の方に「2024年関東大学テニスリーグのコートレフェリー及び質疑権所有者のネームカード」を受け取りに来ていただきます。日程が合わず、代表者を出すことができない大学は、（各リーグ対応メールアドレス）まで以下の期限内でお問い合わせください。

メール期限：男子 7 部、女子 5 部：2024 年 8 月 11 日迄
男子 1～6 部、女子 1～4 部：2024 年 8 月 12 日迄

日時：8月13日(火)

男子 7 部校：11:00～11:30

女子 5 部校：11:30～12:00

8月14日(水)

女子 1 部・2 部：10:00～10:30

女子 3 部・4 部：10:30～11:00

男子 1 部・2 部：11:00～11:30

男子 3 部・4 部：11:30～12:00

男子 5 部・6 部：12:00～12:30

会場：当連盟事務所

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-6-9 神田第2アメレックスビル 7階

※詳しいアクセスは当連盟HP上に掲載しております

当日の欠席連絡は、2024関東大学テニスリーグの問い合わせ用メールアドレス(1部校：1buleague2024@gmail.com 2部校以下：2bukaleague2024@gmail.com)へ必ず御連絡下さい。宜しくお願いいたします。

当日は、13 時に事務所を閉めさせていただきます。男女指定された時間に遅れの無いようお越しください。

暑熱下に開催されるテニス競技会での

ヒートルールと メデイカルルールの 運用について

2019年6月

公益財団法人日本テニス協会



1 暑熱下で開催される競技会でのヒートルールの採用と適用について

暑熱下の無理な試合の続行は、選手の安全だけでなく大会主催者としての管理責任に直結し、場合によっては取り返しのつかない事態に発展しかねません。ここでいう取り返しのつかない事態には、出場選手の熱射病、死亡事故、大会存続の危機、主催者の損害賠償責任が含まれます。そこで、大会主催者は、環境省の「暑さ指数(WBGT)予測値等電子情報提供サービス」が1時間ごとに提供する大会会場に最も近い地点でのWBGTを参考に、主催大会に以下のヒートルールの採用と適用をすることが期待されます。

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	指針レベル	対 応
24 } 28℃	21 } 25℃	1 注意	熱中症の兆候に注意するとともに、エンドチェンジの際に積極的に水分・塩分を補給するよう促す。
28 } 31℃	25 } 28℃	2 警戒	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給させる。
31 } 35℃	28 } 31℃	3 嚴重警戒	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いので、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給をさせる。体表冷却手段を提供する。
35℃ 以上	31℃ 以上	4 特別対応	<p>上記の嚴重警戒対応に加え以下の対応を講じる。</p> <p>① J1以上の大会で3セットマッチで行われる種目</p> <p>1 以下のいずれかの試合フォーマットを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファイナルセットマッチタイブレーク (10ポイントまたは7ポイント) ●3タイブレークセット <p>2 最終セット前に10分間のコート外での休憩を与える。</p> <p>② 上記以外のJTA公式大会で3セットマッチで行われる種目</p> <p>1 以下のいずれかの試合フォーマットを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●3ショートセット (4ゲームオールまたは3ゲームオールタイブレーク) ●ファイナルセットマッチタイブレーク (10ポイントまたは7ポイント) <p>2 最終セット前に10分間のコート外での休憩を与える。</p>



2 暑熱下で開催される競技会での メディカルルール適用について

1

JTA公式トーナメント競技規則「25.メディカルルール」により、選手は試合中に発生したケガや病気の場合、レフェリーまたはアンパイア（ロービングアンパイアを含む）を通じてトレーナーまたはドクターを要請し、次のエンドチェンジかセットブレイク中に診察を受けたりあるいは自ら回復につとめることができる。これは暑熱下での試合にも当てはまり、次のルールが適用されます。

- 選手は、1試合につき1人1回のメディカルタイムアウト(3分間の手当)を取れる。
- 選手は、メディカルトリートメントとしてエンドチェンジ(90秒)、セットブレイクの時間内(120秒)に手当を受けたり、ドクターから医薬品を受け取ったりできる。手当は2回までならメディカルタイムアウトの前でも後でもとることができ、その2回は連続するエンドチェンジでなくてもよい。ただし、手当のできない症状の場合には適用されない。

2

他方、選手がケガや熱中症を含む病気の発生にも拘わらずプレーの継続を求めた場合、レフェリーは選手の安全のためにJTA公式トーナメント競技規則「25.メディカルルール」の「8.身体的プレーの限界」を適用することができるとされている。暑熱下における「身体的プレーの限界」の運用は以下の通りとする。

(ア)ドクター若しくはトレーナーが配置されている大会

- レフェリーはドクターまたはトレーナーが熱中症の発症と判断した場合、選手に棄権あるいはリタイアを宣告する。

(イ)ドクター、トレーナーの何れもが配置されていない大会

- 次頁に掲げる該当する熱中症を疑わせる状態の重症度点の合計が3点以上を「身体的プレーの限界」の判断の基準とし、レフェリーはその基準に達した選手に棄権若しくはリタイアを宣告する。

3

選手が棄権若しくはリタイアが宣告された場合、レフェリーは同選手に対して一次救命措置を始めとする緊急時の応急処置の手配をしなければならない。

「身体的プレーの限界」の判断の基準

ドクター、トレーナーの何れもが配置されていない大会においては、以下の熱中症を疑わせる該当する状態の重症度点の合計が3点以上の場合を、レフェリーによる公式トーナメント競技規則「25.メディカルルール」の「8.身体的プレーの限界」を適用する判断基準とする。

症状	熱中症を疑わせる状態	重症度	重症度点
めまい	ふらつき感やふわふわしている状態で 上手に歩けない	I度	1点
失神	短い時間で意識を失うが、短時間で回復する。 椅子の上で崩れ落ちる	I度	1点
筋肉痛、筋肉の硬直	部分的な筋肉のこむら返りや痛み、 突っ張った状態	I度	1点
不快感、吐き気、 嘔吐、頭痛	体がぐったりしている、 力が入らないなどの強く疲労した状態	II度	2点
虚脱感	交通手段やゲームカウントなど 順序立てて説明ができない	II度	2点
意識障害	呼びかけや刺激への反応が悪く、 まともに会話ができない	III度	3点
痙攣	手足や身体を激しく震わせたり、 突っ張ったまま動かさない状態	III度	3点
手足の運動障害	自力で真っ直ぐ歩行ができない、 もしくはラケットを握ることができない	III度	3点
高体温、発汗低下	通常の運動時よりも明らかに熱いにも拘わらず、 発汗がみられない	III度	3点

参考資料

1. JTA公式トーナメント競技規則

「25.メディカルルール」の「8.身体的プレーの限界」

試合中に突然、選手が自力でトレーナーまたはドクターを要請できないほど具合が悪くなったり負傷した場合は、チェアアンパイア、ロービングアンパイア、レフェリーは直ちにトレーナーまたはドクターを呼ばなくてはならない。

身体的に試合を開始または続行できる状態でないとトレーナーまたはドクターが判断した場合は（プレーを開始あるいは続行することが選手に悪影響を及ぼすと判断した場合は）、レフェリーにその旨報告しなければならない。それが試合前である場合はレフェリーに対してその選手は試合を棄権した方が良いとアドバイスし、試合中であればリタイアさせた方が良いとアドバイスする。

このような選手を棄権あるいはリタイアさせる判断は、医学的アドバイスやあらゆる状況を考慮して、レフェリーが最終判断する。

2. 日本救急医学会熱中症分類

熱中症の診断には大きく分けて、①身体所見によって行う診断と②直腸温による診断がある。直腸温による診断は直腸温測定技術がないと困難なことから、以下、身体所見による医学的診断を紹介する。

	症状	重症度	治療	臨床症状からの分類	
I度 (応急処置と見守り)	めまい、立ちくらみ、生あくび 大量の発汗 筋肉痛、筋肉の硬直(こむら返り) 意識障害を認めない (JCS=0)		通常は現場で対応可能 →冷所での安静、体表冷却、 経口的に水分とNaの補給	熱けいれん 熱失神	I度の症状が徐々に改善している場合のみ、現場の応急処置と見守りでOK
II度 (医療機関へ)	頭痛、嘔吐、倦怠感、虚脱感、 集中力や判断力の低下 (JCS≤1)		医療機関での診察が必要 →体温管理、安静、十分な水分と Naの補給 (経口摂取が困難などときには 点滴にて)	熱疲労	II度の症状が出現したり、I度に改善が見られない場合、すぐ病院へ搬送する(周囲の人が判断)
III度 (入院加療)	下記の3つのうちいずれかを含む (C)中枢神経症状 (意識障害JCS≥2、小脳症状、 痙攣発作) (H/K)肝・腎機能障害 (入院経過観察、入院加療が必要な程度の肝または腎障害) (D)血液凝固異常 (急性期DIC診断基準(日本救急医学会)にてDICと診断)⇒III度の中でも重症型		入院加療 (場合により集中治療)が必要 →体温管理 (体表冷却に加え体内冷却、 血管内冷却などを追加)、呼吸、 循環管理、DIC治療	熱射病	III度か否かは救急隊員や、病院到着後の診察・検査により診断される

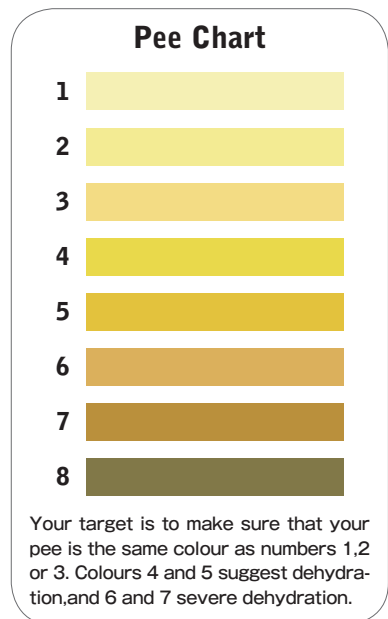
※出典：日本救急医学会 熱中症診療ガイドライン2015

3.大会主催者に求められる事前対応

- ①日頃より、救命講習、応急手当普及員講習に参加し、心肺蘇生とAEDの使用方法を習得しておく。
- ②事故発生時の応急措置・緊急連絡体制の整備と周知を徹底する。
- ③可能な限りドクター、トレーナー若しくはそのいずれかを大会会場に配置する。
- ④救急搬送先病院の手配を行う。
- ⑤大会会場では給水所を確保し、大会本部、トイレまた自販機、売店がある場合はその場所を分かりやすくする。
- ⑥日よけ用テントやパラソルを設置して日陰を確保し、選手、帯同者、観客に日傘の持参を奨励する。
- ⑦選手に対して、通気性、吸湿性、速乾性の良い白を基調とした熱を吸収しにくい服装着用の奨励とサンバイザーではなく帽子着用を徹底させる。
- ⑧大会会場のAED配置と配置場所、使用方法の確認を行う。
- ⑨エントリー選手にセルフメディカルチェックを実施する。
- ⑩JTA作成「夏場の熱中症防止5ヶ条の呼びかけ」とヒートルールを大会プログラムに掲載し、その事前周知を徹底する。

4.大会開催期間中に求められる対応

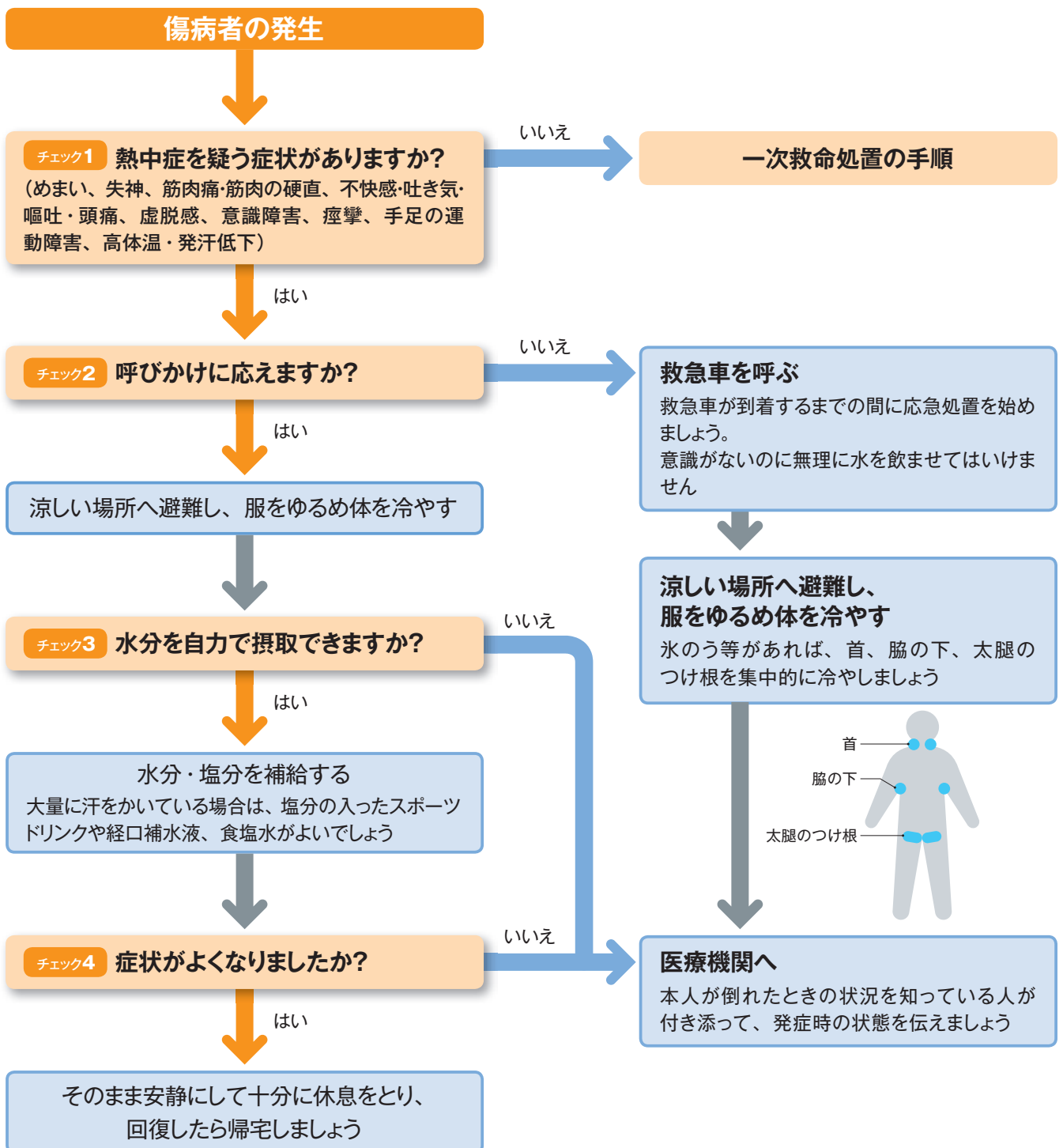
- (ア) 環境省「暑さ指数 (WBGT) 予測値等電子情報提供サービス」を活用し、大会会場に最も近い地点でのWBGTを毎時間チェックし、熱中症予防指針レベルと必要とされる対応を確認し、大会関係者に周知する。
- (イ) 試合当日、あるいは試合前後に選手に対して体温測定を実施する。
- (ウ) 本人および指導者に対して、熱中症対策として指導している内容の再確認を行う。
- (エ) エントリー選手より提出されたメディカルセルフチェックシートに基づき、出場各選手の大会当日の健康確認を行う。
- (オ) 選手が水分補給をできているかの確認を継続的に行う(できれば、コート内にクーラーボックスを置き、飲みものを冷やして提供する)。
- (カ) 体表冷却手段を提供する。
- (キ) 大会コートのベンチにパラソルを設置あるいは日傘を用意し(できればテントを張り)、エンドチェンジ、セット間での日陰での休憩を促す。
- (ク) ヒートルールが適用されることをレフェリーや選手、指導者側へ周知する。
- (ケ) 熱中症防止の視点からOrder of playの再検討を行う。
- (コ) 熱中症注意の呼びかけを継続的にアナウンスする。
- (サ) 脱水状態確認用尿カラーチャート (Pee Chart) をトイレなどに掲示し、各選手が自身で確認できるようにする。



8段階中5以上が脱水の可能性あり

5.熱中症を含む緊急時の応急対応

もし、あなたのまわりの人が具合が悪くなってしまったら……。
落ち着いて、状況を確認してから対処しましょう。最初の措置が肝心です。



※環境省 熱中症予防情報サイトを参考に公益財団法人日本テニス協会が作成
http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_gline.php

6.熱中症に関する情報源

- 環境省：熱中症予防情報サイト
<http://www.wbgt.env.go.jp/>
- 環境省：熱中症環境保健マニュアル
http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_manual.php
- 環境省：イベント主催者・施設管理者のための夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン2019
http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_gline.php
- 総務省消防庁：熱中症救急搬送者
<https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post3.html>
- 厚生労働省：熱中症関連情報
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/index.html
- 気象庁：HP（気象情報、高温情報など）
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- 日本救急医学会：熱中症診療ガイドライン2015
<http://www.jaam.jp/html/info/2015/pdf/info-20150413.pdf>
- 日本生気象学会：日常生活における熱中症予防指針
<http://seikishou.jp/pdf/news/shishin.pdf>
- 公益財団法人日本スポーツ協会：医・科学ガイドブック
<http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx>
- 公益財団法人日本テニス協会：熱中症防止5ヶ条順守の呼びかけについて
<https://www.jta-tennis.or.jp/Portals/0/resources/information/integrity/pdf/jta-008-j.pdf>



公益財団法人
日本テニス協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 7階
電話：03-6812-9271 FAX：03-6812-9275

URL：<https://www.jta-tennis.or.jp/> Mail：mail@jta-tennis.or.jp